

一巡するディープシークショックとテック株の見通し



チーフ・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① ディープシークショックはひとまず一巡

28日の米国株式市場では、米国のAI開発への不透明感から前日に大きく下げた米半導体大手エヌビディアなどテック株に幅広く見直し買いが入りました。中国のスタートアップ企業であるディープシークの低コスト生成AIモデルが、この業界で先行しているとされる米企業の優位性を崩すとの懸念はひとまず一巡した格好です。

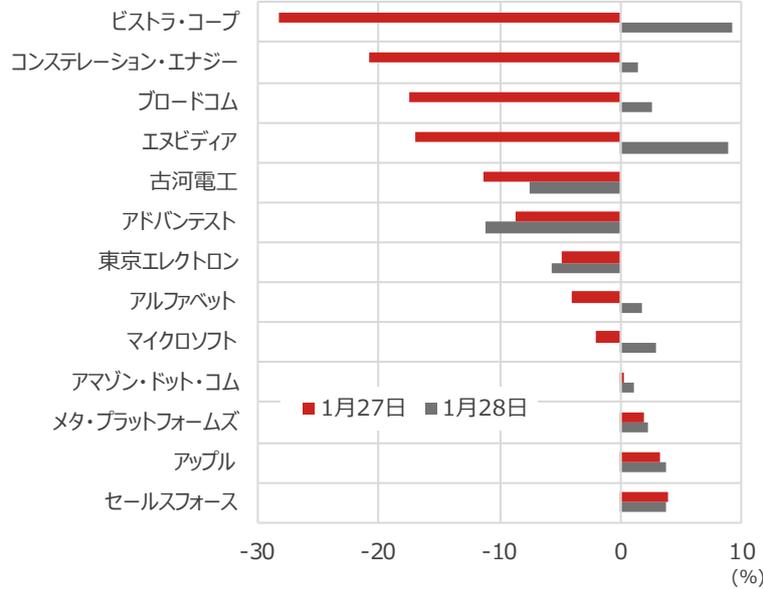
前日には生成AIの普及による電力需要の拡大期待でこれまで買われてきた米電力大手ビストラ・コープ、コンステレーション・エナジーや半導体を手掛けるエヌビディア、ブロードコムなど、生成AIの普及をインフラ面で支える企業に売りが膨らみました（右上図）。ただ、28日にはそうした動きは一巡し、エヌビディアやビストラ・コープなどは大きく値を戻したほか、生成AIを手掛ける米大手テック株が軒並み落ち着いた動きを見せており、開発コストが下がることで生成AIの普及が進むとの期待が意識されたようです。

ポイント② 生成AI市場の拡大余地は極めて大きい

実際、インターネットやパソコンなど過去の技術革新でも価格の低下が製品・サービスの普及を後押ししてきました。低コストのAIモデル開発と米企業が強みを持つ最先端半導体を組み合わせれば、生成AIを活用した様々なサービスが急速に広がる可能性を秘めていると考えられます。

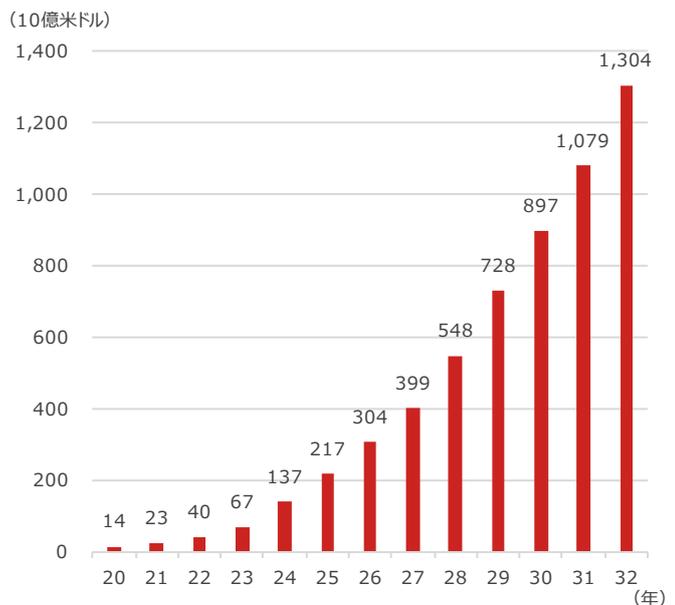
世界の生成AI市場規模は23年の670億米ドルから32年には1.3兆米ドルに拡大するとみられていますが、生成AIの普及スピードが拡大するのであれば、さらに市場規模が膨らむ可能性もあります（右下図）。生成AIを手掛ける大手テック、半導体、電力、ソフトウェア関連企業を取り巻く環境は良好さを保っているといえそうです。

生成AI（人工知能）関連銘柄の騰落率



期間：2025年1月27日と28日の騰落率、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

世界の生成AI市場規模の推移及び予測



期間：2020年～2032年、年次
・2024年以降は予測額
（出所）Bloomberg（Statistaより引用）より野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2025年1月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。